

緑風会 藪田 啓介 議員

鈴鹿市の救急医療体制について

(質問) 平成25年中の救急搬送人員は7,984人であり、そのうち二次医療機関への搬送件数は5,019件、一次医療機関への搬送は1,641件と年々増加し救急隊員は搬送先を探すのに苦勞をしていると聞くが一次・二次医療機関の輪番体制は機能をしているのか。
また、20歳の胃がん検診「ABC検診」の実施とか

かりつけ医へとつなげる取り組みはどうか。

(答弁) 市内3病院と一次救急医療体制運営事業協定を結んでおり、限られた医療資源を有効に活用し地域の医療体制を維持するように鈴鹿市医師会、一次二次救急医療機関、保健所、消防本部を構成メンバーとする「救急医療調整会議」にて協議を行っている。

また、がん検診をかかりつけ医につなげる取り組みは有効な手立てであると考えており、胃がん検診(ABC検診)は40歳から実施する。

開政クラブ 森田 英治 議員

不法投棄、野生動物等の処理・対応について

(質問) 私有地に不法投棄されたゴミの処理や対応について。また、犬や猫など野生の小動物の死体処理について。他市では死体の回収を行っている例もある。衰弱している場合も含め市の対応は。

(答弁) 不法投棄について通報を受けると、職員が現地確認を行い、投棄者を特定できるもの

があれば、撤去指導を行うが、特定できない場合は、所有者の方に処理していただくことになる。また、小動物についても民地で死んでいる場合には、所有者の方に処理をお願いしている。

しかし、回収を行っている市もあるようなので、今後は、先進地に聞き取りを行うなど、調査研究をしていく。また、衰弱している犬・猫などについては、保健所に連絡し対応をお願いしている。

その他の質問 ○ノロウイルス対策について

開政クラブ 板倉 操 議員

臨時・嘱託職員の現状と待遇改善

(質問) ここ十年、市の職場で臨時・嘱託職員の増加が著しい。調理・保育現場では40人弱の増加だ・保育所では4H以下の方はカウントされないのも更に多い。子どもたちの育ちに関わる現場で正規職員が非正規へと換えられている。どう考えているのか。また正規保育士と同等の仕事をする嘱託保育士を募集しても応募がないのは、低賃金が原因ではないのか。臨時・嘱託

職員の賃金は職務経験が加味された賃金にすべきと思うがどうか。

(答弁) 職員についての「定員適正化計画」により十年間で75人純減する計画である。正規の配置について重点化しているので、指摘の職場では非正規が増える結果となった。保育士の嘱託の賃金は確かに低く、4月から職責の重さにより見直しをする。職務経験の加味について現在は考えていない。

その他の質問 ○共生と平和を発信する鈴鹿市づくり

公明党 森 しず子 議員

特別支援教育について

(質問) 読むことが苦手な子どもに、パソコンを活用して、画面上で文字を大きくしたり、色を変えたりして、文章を読み易くするための教材であるデージー教科書を導入してはどうか。

(答弁) デージー教科書は、文部科学省において教材として位置付けられ、通常の教科書の内容を、パソコンなど活用して音声や文字で同時

再生できる教材で、読み書きが困難な児童・生徒の学習支援に有効な活用が可能である。国においては、障がいのある児童・生徒に向けた音声教材の普及推進を進めている。本市は来年度、小学校に導入予定のタブレット型パソコンを活用して、特別支援教育においてもICTの有効活用について調査研究を進め、その中でデージー教科書の効果的な活用についても研究を進めたい。

その他の質問 ○障がい者の就労について